

令和5年度 シラバス

教科	国語	科目	言語文化	学年 学科 類型	1年 商業科 I型
単位数	2	教科書	言語文化(数研出版)		
副教材等	高等学校 言語文化 準拠ワーク				

学習の目標	<p>1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしましょう。</p> <p>2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしましょう。</p> <p>3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。</p>
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。 ・教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。 ・言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・古文 説話 随筆(一) ・漢文 入門 故事 ・近現代編 近代小説(一) 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の話の現代社会に通じる点を話し合う活動を通して、我が国の言語文化に対する理解を深めます。 ・漢文由来の命名の効果を考える活動を通して、言葉の持つ価値への認識を深め、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばします。 ・近代小説と古典を読み比べる活動を通して、論理的に考える力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・古文 歌物語 随筆(二) 和歌 ・漢文 史伝 漢詩 ・近現代編 現代小説 近代小説(二) 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じエピソードを記した複数の作品の比べ読みを通して、我が国の言語文化に対する理解を深め、豊かに想像する力を伸ばします。 ・中国の戦国時代の論客を調べる活動や、現代の日本語に取り入れられている唐詩の表現の語源について諸説を比べる活動を通して、言葉の持つ価値への認識を深め、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばします。 ・現代小説を読み、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・古文 日記文学 軍記物語 ・漢文 思想 文章 ・近現代編 近代小説(三) 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品に描かれた当時の人々の価値観を考察する活動を通して、我が国の言語文化に対する理解を深めます。 ・文章の書かれた当時の時代背景を踏まえて、筆者についての考えをまとめる活動を通して、論理的に考える力を伸ばし、自分の考えを深めます。 ・近代小説を読み、作品の設定と主題の関係を考察する活動を通して、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価 方 法	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

(備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和5年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	歴史総合	学年 学科 類型	1年 商業科 I型
単位数	2	教科書	高等学校 歴史総合 (第一学習社)		
副教材等	明解歴史総合図説シンフォニア 初訂版(帝国書院)、学習事項の整理と問題 歴史総合ノート(第一学習社)				

学習の目標	1 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を相互的な視野から理解します。 2 現代の諸課題を歴史的観点から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。
学習の方法	・中学時代には学習していない項目が多数ありますので、授業に集中することが大切です。 ・家庭学習では復習に重点を置きましょう。教科書とともに、授業中に指示された資料集の箇所は、家で熟読して理解を深めていくように心掛けていきましょう。

学期	単元	学習活動とねらい
1 学期	第1部 歴史の扉 第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 産業革命と市民革命 第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大 第4節 アジア諸国の変貌と西アジア 第5節 帝国主義の発展	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象をもとに、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解します。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア諸国と欧米諸国の貿易などをもとに、18世紀のアジアの経済と社会を理解します。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命産業革命、国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などをもとに、国民国家の形成を理解します。 ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などをもとに、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解します。
2 学期	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第一次世界大戦と大衆社会 第2節 経済危機と第二次世界大戦 第3節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 第3章 グローバル化と私たち 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	・第一次世界大戦の展開、国際連盟の成立などをもとに、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解します。 ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策、第二次世界大戦の展開などをもとに、国際協調体制の動揺を理解します。 ・国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりなどをもとに、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解します。 ・冷戦と国際関係、人と資本の移動、食料と人口、エネルギーと地球環境などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けます。
3 学期	第2節 国際秩序の変容と21世紀の世界 現代的な諸課題の形成と展望	・石油危機、アジア諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化などをもとに、市場経済の変容と課題を理解します。 ・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的な経緯を踏まえて現実的な課題を理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を、解決を視野に入れて構想したりすることができ、また、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度が身に付いている。また、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚が深まっている。
評価 方 法	・定期考査 ・パフォーマンス評価 ・課題	・定期考査 ・行動の観察 ・レポート	・出席状況 ・行動の観察 ・ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和5年度 シラバス

教科	数 学	科目	数学 I	学年 学科 類型	1年 商業科 I 型
単位数	3	教科書	新編数学 I (啓林館)		
副教材等	新課程版 ネオパル数学 I (第一学習社)				

学習の目標	数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間とのかかわりや、社会生活において数学が果たしている役割について理解し、数学に対する興味・関心を高めるとともに、数学を活用していく能力を身に付けます。
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書と並行して、問題集「ネオパル」で演習を行います。予習・復習を徹底するとともに、疑問点の解消に向けて努力してください。 ・学習課題は必ず行い、提出物は期限までに必ず提出してください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 数と式 第1節 整式 第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 集合と命題 第1節 集合と命題 第3章 2次関数 第1節 関数とグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・式の展開と因数分解について学習します。 ・数を実数まで拡張する意義を確認し、数の体系について理解を深めます。また、身近な事象を1次不等式の問題に帰着させ、それを解く方法を学習します。 ・集合の考え方をを用いて必要条件、十分条件、対偶などを学習します。 ・2次関数のグラフの特徴について理解を深めます。
2 学期	第3章 2次関数 第2節 2次関数の最大・最小 第3節 2次関数と方程式・不等式 第4章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比 第2節 鈍角の三角比	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを用いて、2次関数の最大値や最小値を求める方法を学習します。 ・グラフを用いて、2次方程式・不等式の解を求める方法を学習します。 ・三角比の意味と相互関係について学習します。 ・角度を鈍角まで拡張し、鋭角との違いや相互関係について学習します。
3 学期	第4章 図形と計量 第3節 図形の計量 第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析 第2節 データの相関 第3節 統計的な見方	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理や余弦定理を用いて、辺の長さや角の大きさを求める方法を学習します。また、直接測りにくいものの長さや角の大きさを求める方法を学習します。 ・データを整理・分析し、事象の傾向を把握する方法について学習します。 ・複数のデータの関係について考察し、それを説明する方法について学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、小テスト ・発表 ・課題プリント ・ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、小テスト ・発表 ・課題プリント ・ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・発表 ・課題プリント ・ノート

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和5年度 シラバス

教科	理科	科目	科学と人間生活	学年 学科 類型	1年 商業科 I型
単位数	2	教科書	高等学校 科学と人間生活(啓林館)		
副教材等					

学習の目標	1 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術と人間生活とのかかわりについての理解を深め、観察、実験などに関する技能を身に付け、人間生活と関連づけて科学的に探究する力を養います。 2 自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高めます。
学習の方法	・授業では、解説をよく聞き、板書等重要なことはノートに整理して記録してください。 ・観察・実験を行う場合は、「何故そうなるのか」を考えながら取り組むことが大切です。 ・課題プリントを用いて復習を行います。期限内に解いて忘れずに提出してください。

学期	単元	学習活動とねらい
1 学期	第1部 生命の科学 第1章 ヒトの生命現象	・タンパク質と遺伝子、ヒトの視覚と光について学び、ヒトの生命現象について理解します。 ・血糖濃度の調節、免疫について学び、ヒトの生命現象について理解します。
	第2部 物質の科学 第2章 衣料と食品 A 衣料の科学	・衣料、染料、洗剤について学び、その性質や利用のしかたについて化学の観点から理解します。
2 学期	第2部 物質の科学 第2章 衣料と食品 B 食品の科学	・食品の主成分について学び、その性質や利用のしかたについて化学の観点から理解します。
	第3部 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用	・光の性質とその利用法を理解します。 ・光を中心とした電磁波とその利用について理解します。
3 学期	第4部 宇宙や地球の科学 第1章 太陽と地球	・太陽や月の構造や見え方や、これらの身近な天体が引き起こす潮汐や大気の運動について学び、太陽や月が地球の大気や海洋、人間生活におよぼす影響を理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身に付けている。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究を深めている。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとするとともに、科学に対する興味・関心を高めている。
評価方法	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、実験レポート	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、実験レポート	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、実験レポート

(備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和5年度 シラバス

教科	保健体育	科目	体育	学年 学科 類型	1年 商業科 I型
単位数	2	教科書	現代高等保健体育(大修館)		
副教材等	現代高等保健体育ノート				

学習の目標	<p>1 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けます。</p> <p>2 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養います。</p> <p>3 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養います。</p>
学習の方法	<p>・体づくり運動、球技・武道(選択)、ダンス・陸上競技(選択)を通して、自分で課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習活動を通して、心と体を一体としてとらえ生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育みます。</p> <p>・体育理論では、スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について学びます。</p>

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・選択(ダンス・陸上競技) 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動を通して体を動かすことの楽しさや心地よさを味わい、心と体が互いに影響し変化することを学びます。 ・ダンスでは感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、表現や踊りの技術を高めて交流や発表ができるようにします。 ・陸上競技では、記録の向上や競走の楽しさや喜びを味わい、技能を高めます。主に障害走と跳躍を行います。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・選択2 (球技【ソフトボール/バレーボール/テニス】・武道) ・選択3 (球技【バスケットボール/サッカー/テニス】・武道) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活に生かす運動の計画では、各自のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てて取り組むことを学びます。 ・球技では、各選択種目で特有の技能の基礎・基本を習得し、仲間と連携する楽しさを味わい、次の学年で高いレベルのゲームができるようにします。 ・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切に、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。 ・スポーツの始まりと変遷、スポーツ文化、オリンピックとパラリンピックの意義について学習します。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技(長距離走) ・選択3 (球技【バスケットボール/サッカー/テニス】・武道) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・長距離走では、自分と向き合い努力すること、粘り強く相手と競り合う強い心を養うことを目標とします。また、ペース配分をしたり、ペースの変化に対応したりするなど主体的に取り組むことができるようにします。 ・スポーツが経済に及ぼす効果、スポーツの高潔さとドーピング、スポーツと環境について学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。</p>	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス評価 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・行動の観察

令和5年度 シラバス

教科	保健体育	科目	保 健	学年 学科 類型	1年 商業科 I 型
単位数	1	教科書	現代高等保健体育(大修館)		
副教材等	現代高等保健体育ノート				

学習の目標	1 個人および社会生活における健康・安全について理解を深めます。 2 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身に付けます。
学習の方法	現代社会は、生活習慣病や薬物、心の問題など健康にかかわる問題が少なくありません。また、健康のとりえ方や健康のために望まれることも変化してきました。そこで現代の健康問題や新しい健康のあり方について、課題学習などを取り入れながら主体的に学習します。

学 期	単 元	学 習 活 動 と ね ら い
1 学 期	I 現代社会と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方や健康を成り立たせている要因について学習します。 ・わが国の健康水準の変化とその背景や現在の健康問題について学習します。 ・生活習慣病の種類と要因、一次、二次予防について学習します。 ・がんの種類や原因、一次予防と二次予防について学習します。おもな治療法や緩和ケア、がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について学習します。 ・健康と運動の関係や目的に応じた健康的な運動の仕方について学習します。 ・食事と健康の関係や健康的な食事のとり方について学習します。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方や健康により睡眠のとり方について学習します。
	01 健康の考え方となり立ち	
	02 私たちの健康のすがた	
	03 生活習慣病の予防と回復	
	04 がんの原因と予防	
	05 がんの治療と回復	
	06 運動と健康	
	07 食事と健康	
08 休養・睡眠と健康		
2 学 期	09 喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙者や周囲に対する害、喫煙対策について学習します。 ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響、健康問題への対策について学習します。 ・薬物乱用が健康や社会に及ぼす影響や対策について学習します。 ・おもな精神疾患の要因と症状、予防について学習します。適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か学習します。 ・おもな感染症の潜伏期間や感染力、新興感染症と再興感染症が流行する要因について学習します。 ・性感染症・エイズとほかの感染症と異なる点についてや、予防と対策について個人と社会に分けて学習します。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の工夫について考えます。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について学習します。
	10 飲酒と健康	
	11 薬物乱用と健康	
	12 精神疾患の特徴	
	13 精神疾患の予防	
	14 精神疾患からの回復	
	15 現代の感染症	
	16 感染症の予防	
	17 性感染症・エイズとその予防	
	18 健康に関する意思決定・行動選択	
	19 健康に関する環境づくり	
3 学 期	II 安全な社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを学習します。また、安全のために必要な行動や環境整備について学習します。 ・交通事故防止における取り組みと交通環境の整備や、交通事故における3つの責任について学習します。 ・応急手当の意義や傷病者を発見したときに確認・観察するポイントを学習します。 ・けがや熱中症の応急手当の手順や方法について学習します。 ・心肺蘇生法の方法と手順について学習します。
	01 事故の現状と発生要因	
	02 安全な社会の形成	
	03 交通における安全	
	04 応急手当の意義とその基本	
	05 日常的な応急手当	
	06 心肺蘇生法	

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価 方 法	・定期考査、小テスト ・パフォーマンス評価	・定期考査、小テスト ・レポート ・パフォーマンス評価	・ノート ・出席状況 ・行動の観察

(備考) 1,2学期の定期考査は、期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。

令和5年度 シラバス

教科	芸術	科目	音楽 I	学年 学科 類型	1年 商業科 I 型
単位数	2	教科書	MOUSA1 (教育芸術社)		
副教材等					

学習の目標	<p>1 音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組みます。</p> <p>2 音楽のよさや美しさを感じ取り、自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現します。</p> <p>3 多様な音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に鑑賞します。</p>
学習の方法	<p>・外国語歌曲の歌唱等、中学校までの音楽の授業より難易度の高い内容です。授業での楽曲や演奏方法に関する説明をよく聞き、理解して演奏してください。</p> <p>・楽典と鑑賞の授業では、音楽の基礎的な知識を理解し、丁寧に楽譜を記入したり、音楽を深く味わって聴いたりしてください。</p>

学期	単元	学習活動とねらい
1 学期	1 歌唱 校歌、イタリア・ドイツ歌曲 ポピュラー・ソング	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の背景や歌詞の内容を理解し、イメージを持って歌います。 ・外国語歌曲の発音を学びながら諸外国の文化を理解し、表現を工夫して歌います。
	2 楽典 楽譜の書き方	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜と音符の書き方について学習します。
	3 鑑賞 バロック時代	<ul style="list-style-type: none"> ・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果を感じ取りながら鑑賞します。 ・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者の特徴を理解して鑑賞します。
2 学期	1 歌唱 ポピュラー・ソング ミュージカル音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の背景や歌詞の内容を理解し、イメージを持って歌います。 ・楽曲が歌われる場面をイメージし、表現を工夫して歌います。
	2 器楽 クラシック・ギター弾き語り	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の奏法を理解し、弾き語りをします。 ・楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏します。
	3 創作 カップソング	<ul style="list-style-type: none"> ・創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら個性豊かに創作表現を創意工夫することを身につけます。
3 学期	1 器楽 ヴァイオリン	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴァイオリンに触れ、西洋の文化的・歴史的背景や特徴を理解します。 ・ヴァイオリンの基本的奏法を習得し、表現を工夫して演奏します。
	2 歌唱 合唱、卒業の歌	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の背景や歌詞の内容を理解し、イメージを持って歌います。 ・合唱の響きを味わいながら、表現を工夫して歌います。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	<p>曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p>	<p>自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p>	<p>主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・実技テスト ・小テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・実技テスト ・小テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・出席状況 ・実技テスト

(備考) ギターとヴァイオリンについては、選択者全員で使用します。丁寧に扱い、授業後は整理整頓に努めてください。

令和5年度 シラバス

教科	芸術	科目	美術 I	学年 学科 類型	1年 商業科 I 型
単位数	2	教科書	美術1(光村図書)		
副教材等					

学習の目標	<p>1 様々な表現活動を通して自らの考えや気持ちを表現する楽しさを味わうとともに、基本的な知識や技術を身に付けます。</p> <p>2 様々な作品を見たり批評し合ったりすることで、幅広い見方のできる鑑賞能力を伸ばします。</p>
学習の方法	<p>・すべての表現活動において、主にアクリル絵の具を使用します。</p> <p>・絵画、デザイン、立体造形、鑑賞、それぞれの学習項目の中に、美術を学習する上で大切な基礎となる内容が入ってきます。</p>

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	1 身近なものを描く	<ul style="list-style-type: none"> ・手のデッサンを通して、観察力、描写力、線の重ね方や明暗の諧調など、基本的な描法を学びます。 ・色彩の基礎を学び、効果的な配色やアクリル絵の具の特性を学びます。 ・単純な色と形を用いて、部活動のマークを作成します。 ・連想した言葉を組み合わせ、ありえないものや状況を構成し、表現します。 ・より面白い配置や構図を考えることで、構成力を身に付けます。 ・伝えたい内容が伝わりやすくなる色や構図、コピーを考え、ポスターを制作します。
	2 マークやサインで伝える	
	3 想像した世界を描く	
	4 メッセージを広く伝える	
2 学 期	5 版画の技法	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象作品を鑑賞し、具象作品とは違う表現の面白さを学びます。 ・スクラッチグラスの制作と鑑賞を通して、ニードルによる彫りの表現と絵の具による色彩の表現の面白さを味わいます。 ・自画像の鑑賞を通して、なぜ自画像を描いたのか、何を描きたかったのかを考え、自身の作品に反映させます。 ・自画像制作を通して観察力を養うとともに、下塗り、上塗り、混色や補色など、絵画表現の基本を学びます。 ・他の生徒の作品を鑑賞することで、表現や発想の違いを理解し、自己理解他者理解を深めます。
	6 自己をあらわす	
3 学 期	7 生命感をあらわす	<ul style="list-style-type: none"> ・首降り人形の制作を通して、強調や省略して表現する面白さを学びます。 ・立体作品を制作することで、平面作品とは違う制作方法、鑑賞方法について理解を深めます。 ・映像メディア表現分野の芸術作品を鑑賞することで、新しい芸術表現の世界を味わいます。
	8 映像メディア	

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かに生活や社会を創造していく態度を身に付けている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・実技 ・作品 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・実技 ・作品 ・レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・出席状況 ・制作状況 ・作品の提出

(備考) 美術室の道具類は、美術選択者全員で使用します。丁寧に扱い、授業後は整理整頓に心掛けましょう。

令和5年度 シラバス

教科	芸術	科目	書道 I	学年 学科 類型	1年 商業科 I型
単位数	2	教科書	書道 I (東京書籍)		
副教材等					

学習の目標	1 様々な書体を勉強し、古典の美に触れ、感性を磨きます。 2 古典を臨書し、様々な書体を書くための技術を身に付けます。 3 日常生活に即した、整った字の書き方を学びます。
学習の方法	・古典の臨書を通して、観察力や技術を学び、集中力を養います。 ・書の歴史を学び、作品への理解を深めます。 ・古典で学習した内容を、創作活動に活用します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 楷書	<ul style="list-style-type: none"> ・書道用具や書道史の基本的なことを学習して、書道学習への心構えを身に付けます。 ・用筆法や字形の組み方を学習し、作品によって異なる書き方を学びます。 ・行書体の字の崩し方を学び、流動する用筆美を味わいます。 ・時代によって異なる書風を鑑賞し、臨書に生かします。 ・日本で発展した書の芸術美を味わいます。
	2 行書	
2 学期	3 隸書	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の用筆法を学び、簡略美を味わいます。 ・篆刻の方法を学び、それぞれの姓名を印材に刻します。 ・古典の臨書で学んだ字形や用筆法を生かして、漢字の書の創作をします。
	4 篆刻	
	5 創作(漢字)	
3 学期	6 仮名	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の基本用筆を学び、平仮名の書き方などを学びます。 ・平安期の和歌を学習し、色々な散らし書きを学びます。 ・学習内容を生かして、漢字仮名交じりの書を創作します。
	7 創作(漢字仮名交じり)	

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができている。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付けている。
評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・臨書への取り組み ・作品 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・応用力 ・感想文 ・作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の観察

(備考) 書道の道具類は、丁寧に扱い、後片付けもしっかり行ってください。

令和5年度 シラバス

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションI	学年 学科 類型	1年 商業科 I型
単位数	4	教科書	BLUE MARBLE English Communication I (数研出版)		
副教材等	英単語ターゲット1200(旺文社)				

学習の目標	1 英語を理解し英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を身に付けます。 2 英語の内容を理解し、自分の感想や考えを英文で表現できる表現力を習得します。 3 基本的な構文や文法、語彙を習得します。CEFRのA2以上取得を目標とします。
学習の方法	・授業は予習を前提に行います。予習に取り組んだ上で、授業中の言語活動に参加しましょう。自分の力で予習を行う習慣を身につけましょう。 ・分からないことがあれば辞書を利用して、自分で調べてみるようにしましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	Lesson 1 Friendships in the Digital Age Lesson 2 Expos: Past, Present, and Future Lesson 3 The Fascinating World of a Professional Storyteller Lesson 4 Chaging Behavior in Unique Ways	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル時代における友達の作り方について考えます。 ・文型について理解します。 ・万博における日本の関わりと未来の万博の役割について考えます。 ・時制について理解します。 ・1人のアメリカ人女性を魅了した日本の伝統話芸の世界について考えます。 ・助動詞や受動態について理解します。 ・人々の行動をよい方向に変えるための仕掛けについて考えます。 ・使役動詞を用いた構文について理解します。
2 学期	Lesson 5 A Journey to Peace Lesson 6 Humans Evolve with Measurements Lesson 7 Bio-logging: Discovering Animals' Secrets Lesson 8 What to Do with Too Many Tourists	<ul style="list-style-type: none"> ・ルワンダ大虐殺を生き延びた1人の女性の物語について考えます。 ・知覚動詞を用いた構文や分詞の用法について理解します。 ・「測る」という行為を通して人類の進化の歴史を考えます。 ・関係代名詞について理解します。 ・野生動物の秘密に迫る「バイオロギング」について考えます。 ・関係副詞について理解します。 ・「オーバーツーリズム」とは何か、またその解決策を考えます。 ・仮定法について理解します。
3 学期	Lesson 9 Surviving in the Information Age Lesson 10 The Spirit of Zen: Less is More	<ul style="list-style-type: none"> ・玉石混交の膨大な情報から真実にたどり着くために何をすべきか考えます。 ・これまで学んだ文法事項の復習と確認をします。 ・「禅」の精神とは何か、そして現代の世界に与えた影響について考えます。 ・これまで学んだ文法事項の復習と確認をします。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・パフォーマンステスト ・小テスト ・レポート課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・パフォーマンステスト ・小テスト ・レポート課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・言語活動への参加状況 ・パフォーマンステスト ・レポート課題

(備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和5年度 シラバス

教科	商 業	科目	ビジネス基礎	学年 学科 類型	1年 商業科 I型
単位数	3	教科書	ビジネス基礎（東京法令出版）		
副教材等	全商商業経済検定問題集3級（実教出版） 全商ビジネス計算実務検定模擬問題集1級（実教出版）				

学習の目標	<p>1 ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付け、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展のため、組織の一員としての役割を果たすことができるようにします。</p> <p>2 ビジネスに関する課題を発見するとともに、そのよりよい解決に向けて積極的に関わり、責任を持って取り組む態度を養います。</p>
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は商業の原則必修科目として位置づけられており、基礎的・基本的な内容を学習します。より専門的な学習にチャレンジするためにも、基礎・基本の徹底を心掛けて取り組んでください。 ・全商商業経済検定3級合格を目指し、授業をもとに、問題を解きながら理解力を深めていきます。冬休みの課題等で、模擬問題を解いて実践力を身に付けていきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	第1章 商業の学習とビジネス 第2章 ビジネスに対する心構え 第6章 取引とビジネス計算 第3章 経済と流通	<ul style="list-style-type: none"> ・商業を学ぶ重要性和学び方、ビジネスに関する知識を基盤として、商業を学ぶことやビジネスの意義と課題について、自らの考えを持ち、組織の一員としての役割を果たせるような学習をします。 ・信頼関係の構築、コミュニケーションの基礎、情報の入手と活用する方法を取り扱いながら、ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度について学習します。 ・売買取引、代金決済など取引とビジネス計算を取り扱い、売買取引を行うための基礎的な知識と技術について学習します。 ・経済の基本概念などを取り扱い、経済に関する基礎的な知識について学習します。
2 学 期	第3章 経済と流通 第6章 取引とビジネス計算 第4章 企業活動	<ul style="list-style-type: none"> ・流通の役割などを取り扱い、流通に関する基礎的な知識について学習します。 ・売買取引、代金決済など取引とビジネス計算を取り扱い、売買取引を行うための基礎的な知識と技術について学習します。 ・企業の形態と組織、マーケティングの重要性と流れなどを取り扱い、企業活動に関する基礎的な知識を学習します。
3 学 期	第5章 身近な地域のビジネス 第6章 取引とビジネス計算 問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスに関する国内の身近な地域の抱える課題や動向について取り扱い、地域の特徴を活かしたビジネスの振興策を考案し、発表等を行います。 ・売買取引、代金決済など取引とビジネス計算を取り扱い、売買取引を行うための基礎的な知識と技術について学習します。 ・前章で学んだビジネス計算について反復学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評 価 方 法	定期考査、小テスト、課題プリント	定期考査、小テスト、課題プリント、ポートフォリオ評価	行動の観察、パフォーマンス評価、課題プリント

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和5年度 シラバス

教科	商 業	科目	簿 記	学年 学科 類型	1年 商業科 I型
単位数	5	教科書	簿記（東京法令出版）		
副教材等	完全段階式 標準検定簿記問題集 3級、2級（東京法令出版）				

学習の目標	<p>1 企業において日常的に発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解します。</p> <p>2 帳表作成や簿記の基本からビジネス活動を計数的にとらえ、経営判断の視点を養います。</p>
学習の方法	<p>・この科目は商業の原則履修科目として位置づけられており、基礎的・基本的な内容を学習します。より専門的な学習にチャレンジするためにも、基礎・基本の徹底を心掛けて取り組んでください。</p> <p>・全商簿記検定2級合格を目指し、講義をもとに、問題を解きながら理解を深めていきます。冬休みの課題等で、模擬問題を解いて実践力を身に付けていきます。</p>

学 期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	第Ⅰ編 簿記の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記に関する基本的な知識や、一連の簿記記入の体系を学習します。 ・企業の経営活動によって発生するさまざまな取引について、基本的な記帳方法を学習します。 ・会計期間中に記入された仕訳帳と総勘定元帳から、財務諸表を作成する一連の手続きについて学習します。 ・会計帳簿の種類と役割、企業に分課制度と帳簿全体のしくみについて学習します。また、3伝票の作成方法も習得します。
	第Ⅱ編 各種取引の処理	
	第Ⅲ編 決算（1）	
	第Ⅳ編 会計帳簿（1）	
2 学 期	第Ⅴ編 特殊な取引	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊な商品売買と特殊な手形取引について学習します。 ・間接法による減価償却の記帳や有価証券の評価など、より進んだ決算整理について学習します。 ・支店開設にともなう基本的な記帳方法や、本支店間の取引、支店相互間の取引（本店集中計算制度）に関する記帳についての理解や、本店と支店の財務諸表の合併に関する手続きについて学習します。
	第Ⅵ編 決算（2）	
	第Ⅶ編 本支店会計	
3 学 期	第Ⅷ編 会計ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・取引の記録と財務諸表の作成について、会計ソフトウェアを活用することで効率的に行う方法を学習する。 ・電子記録債権・電子記録債務とクレジット売掛金の記帳について学習します。 ・株式会社の設立・開業・剰余金の配当および処分、株式会社の税務など株式会社特有の記帳について学習します。
	発展編 その他の債権・債務	
	発展編 株式会社会計	

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応している。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評 価 方 法	課題プリント、小テスト、ノート、定期考査、パフォーマンス評価	課題プリント、ノート、定期考査、パフォーマンス評価	出席状況、行動の考査、課題プリント、ノート

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和5年度 シラバス

教科	商 業	科目	情報処理	学年 学科 類型	1年 商業科 I型
単位数	3	教科書	最新情報処理 Advanced (実教出版)		
副教材等	全商情報処理検定模擬問題集 3級、全商ビジネス文書実務検定試験問題集 2級、1級(東京法令出版)				

学習の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネスにおける情報の意義を理解し、情報をビジネスに積極的に活用する態度を身に付けます。 2 コンピュータやソフトウェアに関する基礎的な知識を習得し、機器の有効利用ができるようにします。 3 情報通信ネットワークなどを活用したビジネス情報の処理ができるようにします。
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理の基本的な知識や様々なアプリケーションソフトの操作方法をパソコンを活用して学びます。 ・検定資格の取得に必要な知識や上級資格の取得方法について学びます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1章 企業活動と情報処理 2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システムの例やビジネスにおける情報活用の実際、コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を学びます。また、情報モラルの基本的な考え方や態度、さらに情報を取り扱う上で守るべき法規の必要性とその概要、企業に適切な情報処理について学び、技術を身に付けます。 ・コンピュータの基本的な機能と構成、ハードウェアとソフトウェアの種類、機能や活用する基本的な技術を身に付けます。また、情報通信ネットワークの基本やビジネス情報の正確な情報の検索・収集、活用方法、コンピュータを保護するためのセキュリティ管理など情報化社会に対応できる能力と姿勢を身に付けます。
2 学期	3章 情報の収集と分析 4章 ビジネス文書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの処理に必須となる表計算ソフトの操作方法や関数の活用方法、グラフの作り方、表計算ソフトを活用した情報の整列・検索・抽出の技法を学び、実用的な操作を身に付けます。また、目的に応じた適切な計算やビジネスにおける需要予測などの手法についても身に付けます。 ・文書処理ソフトの基本的な操作方法から、図表やグラフの挿入やレイアウト編集の手法まで実習を通して習得します。
3 学期	4章 ビジネス文書の作成 5章 プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスで活用する様々な基本文書に関して書式や役割を学びます。さらに差し込み印刷やはがき宛名印刷等を学び、実用的な操作ができるようにします。 ・プレゼンテーションの意義と必要性について考え、アウトラインの作成や序論・本論・結論のプランニング等を学び、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、準備から発表までのプレゼンテーション技法を習得します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価 方 法	課題プリント、実技、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、小テスト、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、実習、課題プリント

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。